

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	音楽基礎 2	
<b>科目基礎情報</b>					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	教科書は設定なし。学生には5線譜のノートを持参してもらい、その回のテーマをプリントで補足しながら説明する				
<b>担当教員情報</b>					
担当教員	宮澤 由衣	実務経験の有無・職種	有・ピアニスト		
<b>学習目的</b>					
<p>これから音楽業界に携わっていく学生たちが楽曲の構造に対し関心を持つことに重点を置く。楽曲作者の意図を汲み取れるよう楽譜の読み方を理解し、音符が示すものを理解することによって音楽に対する関心を深めていく。アーティストが用いるコードにどのような意味があるかを理解することで、よりアーティストの意思を感じ取ることができるようになる。また5線紙のノートに実際に記述することにより、譜面を手書きすることに対する抵抗をなくす。講義内では実際に鍵盤楽器を奏でて、譜面の中で示される強弱や奏法について、まずは感覚的に捉えられるようにする。少しでも音楽の成立について理解ができるよう、音楽史についても触れていく。</p>					
<b>到達目標</b>					
<p>楽器や音源の成り立ちに対し、学生たちが興味・関心が持てるようになることを到達目標とする。これにより関わって行くアーティストの楽曲を製作する上での意図を汲み取ることができ、よりアーティストに寄り添うことができる裏方スタッフの育成を目指す。音楽への関わり方は学生それぞれのためどうしても音楽に対する理解度もまばらになってしまいがちだが、業界で働く上で最低限抑えるべきポイントを理解させることにより、どの学生であっても楽曲の構成について向き合うことができるようになる。観て学んだ音符や奏法、演奏する上での指示を鍵盤楽器の実演で示すことにより、感覚的に譜面の指示を理解できるようになる。</p>					
<b>教育方法等</b>					
授業概要	講義の内容としては毎回テーマについて説明をするところから入り、そのテーマに沿って説明を行っていく。教科書などは用意せず、その都度プリントを配布することで補足説明をより分かりやすく理解できるようにしていく。習得しておくべき知識であるため、同じ内容を何度も反復して復習できるよう、授業の内容を設定していく。疑問や理解できなかった部分は個別対応ができるよう、講義内で時間を設けてなるべく知識を頭に入れられる環境づくりを行っていく。				
注意点	毎回プリントを配布することになるため定期テストの範囲はわかりやすいが、プリントを紛失してしまうと試験前の対策などに影響が出る可能性がある。また5線紙を利用するためプリントの他にも毎回の講義で紙の資料が増えていくため、配布資料と板書ノートの管理は細心の注意を払ってほしい。また、過去の講義で教えた事柄が次の講義では当たり前の共通認識として講義を展開するため、もし理解し切れていない部分があった場合にはその日のうちに確認をし、次の講義に備えて欲しい。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	70%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
<b>授業計画 (1回～15回)</b>					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期に学んだ内容を再確認 (1)	プリントを配布してこれまで学んだ事を再確認する			
2回	前期に学んだ内容を再確認 (2)	前期のテストを実施し、自己採点で弱点を見つける			
3回	譜面から読み取る (1)	手書き譜面から記号や演奏指示を見つけ出し、楽曲作者の意図を汲む			
4回	譜面から読み取る (2)	実際にはどのような意図があったかを答え合わせしながら解説する			
5回	鍵盤楽器と音	鍵盤の位置と音を一致させ、音階を理解する			
6回	音程がもたらす効果	鍵盤でKEYを変えながら演奏をし、それぞれどのような違いがあるかを検証する			
7回	スケール	メジャースケールとマイナースケールを理解する			
8回	コードの活用	楽曲作者が実践している作曲する上でのコード活用の仕方			
9回	リスニング (1)	楽曲を聞いて、これまで学んだ記号や演奏指示を書き出してみる			
10回	リスニング (2)	解説をしながら聞き取りが正しかったかどうかの答え合わせをする			
11回	リズムについて (1)	ドラム音源を使用しながらリズムを聞き取ってみる			
12回	リズムについて (2)	解説をしながら聞き取りが正しかったかどうかの答え合わせをする			
13回	後期に学んだ事の総復習 (1)	テスト方式でプリント課題を実施し、弱点を見つける			
14回	後期に学んだ事の総復習 (2)	全体のまとめ、前回の講義で発見した弱点を個別対応で解決する			
15回	全体の総まとめ	1年間学んできたことのまとめ			